

# 外国語科（英語コミュニケーションⅡ）学習指導案

日 時：令和7年9月19日（金）第5時限

場 所：原町高等学校 視聴覚室

クラス：普通科2年4組（38名）

授業者：教 諭

ALT

## 1 単元名 LESSON 7 More Than Just Shelters (FLEX ENGLISH COMMUNICATION II 増進堂)

### 2 単元の目標

坂茂の建築家としてのポリシーや社会的な話題（自然災害によって家を失った人たちが直面する過酷な環境）について理解し、聞いたり読んだりして得た情報を活用しながら、ディスカッション活動において、自分の意見を理由とともに述べたり、相手の意見に応じて、論理の構成や展開を工夫しながら賛成したり反対することができる。

### 3 単元について

#### (1) 教材観

本単元は、建築家であり、緊急避難住居（仮設住宅）を提供している坂茂や社会的な話題（阪神・淡路大震災や東日本大震災などの自然災害が人々に及ぼす影響等）について扱っている。自然災害のたびに、被災者が緊急避難所で暮らす様子が報道され、そのような経験をした生徒や、報道で目にした生徒がどのような問題を感じているのか、論題を吟味し、建設的な意見を出す力をつけさせることのできる教材である。

#### (2) 生徒観

授業におけるペア・グループ活動においては、常に主体的な態度で臨むなど、間違いを恐れずに会話を継続しようとする態度が身につけている生徒が多数を占める集団である。しかしながら、多様な語句・文を使ったり、論理性に注意して会話を続けたりすることには課題がある。加えて、議論の中身が表面的になってしまうことから、日頃から興味のある内容や社会的に注目の集まる事柄について自分の意見や考えをもつ習慣が求められる。

#### (3) 指導観

本単元では、聞いたり読んだりして得た情報を活用しながら、グループ（3人）でトリオ・ディスカッションを行う。ディスカッションでは、相手の意見を踏まえた上で、自分の意見を論理的に述べる必要がある。ワークシート等を利用し、ディスカッションで用いられる語句や表現の事前指導を行い、活動に対する生徒の参画意識を高める。

### 4 小中高連携の視点

昨年度は小中高で共通したやり取りの言語活動（Sasu-Kene English）を帯活動やパフォーマンステストの中に組み入れ、段階に合わせた発展的内容に取り組みさせることで、目的、場面、状況等に応じて自分の意見を論理的に伝えることのできる力の育成を試みた。今年度は小中高でトリオ・ディスカッションに取り組みさせる。共通のトリオ・ディスカッションシートを活用し、ディスカッション表現を学びながら3人でディスカッションを行う。3人で話をすることで、生徒が自分1人のときよりも「深い」、「多様な」考えに至ることを感じさせたい。

5 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと [やり取り]	<p><b>【知識】</b> If S' were to V', S would V ~ を用いた表現を理解している。</p> <p><b>【技能】</b> 社会的な話題（自然災害によって家を失った人たちが直面する過酷な環境）について、If S' were to V', S would V ~ を用いて自分の意見を理由とともに述べる技能を身につけている。</p>	<p>自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、社会的な話題（自然災害によって家を失った人たちが直面する過酷な環境）について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合っている。</p>	<p>自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、ボディランゲージ（アイコンタクト等）を用い、社会的な話題（自然災害によって家を失った人たちが直面する過酷な環境）について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合おうとしている。</p>

6 単元の指導計画（全8時間）

時間	ねらい (■)、言語活動等 (丸数字)	評価規準			備考
		知	思	態	
1	<p>■単元の話題（建築家である坂茂の功績）の文章理解に必要な言語材料（部分否定、If S' were to V', S would V ~）を理解し、適切に用いることができる。</p> <p>①それぞれの言語材料を理解し、設問に答える。</p>		見届けて指導に生かすことは毎時間行う。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を		<p>・生徒の活動の状況を見届けて指導に生かす評価を行う。</p> <p>・単元を通して学習の振り返りは適宜行わせる。</p>
2	<p>■単元の話題（建築家である坂茂の功績）に対する生徒の興味・関心を喚起するとともに、単元の目標を確認する。</p> <p>①テキストで出てくる新出語句・表現を確認し、ペアで練習する。</p> <p>②坂茂に関する文章を聞いたり読んだりして、必要な情報を理解し、設問に答える。</p>				
3-4	<p>■単元の話題（建築家である坂茂の功績）についての英文を読み、英語で要約する。</p> <p>①建築家としての坂茂の信念と、自然災害後の彼の活動についての英文を読み、英語で要約する。</p> <p>②Comprehension Questions</p>				
5	<p>■単元の話題（建築家である坂茂の功績）についての英文を写真や図・イラストやキーワードをもとに要約する。</p> <p>①写真やキーワードをもとに、多様な語句・表現を用いながら、ペアで Retelling 活動を行う。</p> <p>②多様な語句・表現を用いることができたか振り返り、再度ペアを変えて Retelling 活動を行い、より詳細に表現することができたか振り返る。</p>				

6	<p>■ 単元の話題（自然災害の後に困窮している人々に手を差し伸べる）に対する生徒の興味・関心を喚起する。</p> <p>① 自然災害についての個人の経験・体験について意見交換を行う。</p> <p>② テキストで出てくる新出語句・表現を確認し、ペアで練習する。</p>				
7	<p>■ 単元の話題（自然災害の後に困窮している人々に手を差し伸べる）についての英文を読み、英語で要約する。</p> <p>① 自然災害によって家を失った人たちが直面する過酷な環境についての英文を読み、段落ごとに英語で要約する。</p> <p>② Comprehension Questions</p>				
8 (本時)	<p>■ 聞いたり読んだりして得た情報を活用しながら、自然災害に直面した際、自分が周りの人のためにできることについて自分の意見を理由とともに述べたり、相手の意見に応じて、論理の構成や展開を工夫しながら賛成したり反対することができる。</p> <p>① 単元の話題に関連する論題（自然災害後に困窮した人々への手助け）について自分の意見を理由とともに述べる。</p> <p>② グループのメンバーを変え、再度ディスカッションを行う。</p>				
後日	パフォーマンステスト	○	○	○	

一斉に記録に残す評価は行わない。  
ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。

## 7 パフォーマンステスト

### (1) 内容

社会的な話題（自然災害後に困窮した人々への手助け）について、テキストで聞いたり読んだりした情報を参考にしながら、自分の意見を適切な理由や根拠とともに述べる。

### (2) 準備する課題

トリオ・ディスカッションシートと発信活動のための語彙リストを使用する。3人で1つのグループを編成し、トリオ・ディスカッションに取り組む。

### (3) 採点基準

#### ○「思考・判断・表現」についての2つの条件

条件1	LESSON 7で学び得た語彙や表現、情報をもとに表現し、相手に伝えている。
条件2	自分の意見を適切な理由や根拠とともに述べている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	・意見を伝え合うための語彙や表現を、ほぼ誤りなく使用している。 ・具体例を述べる表現、論理の展開に工夫が見られる。	2つの条件を満たした上で、意見を論理に矛盾や飛躍がなく、より適切な理由とともに述べている。	2つの条件を満たした上で、意見を論理に矛盾や飛躍がなく、より適切な理由とともに述べようとしている。
b	・多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の語彙や表現を使用している。 ・具体例を述べる表現、論理展開の表現を使用している。	2つの条件を満たしている。	2つの条件を満たそうとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

8 本時のねらい (第8時)

聞いたり読んだりして得た情報を活用しながら、自然災害に直面した際、自分が周りの人のためにできることについて自分の意見を理由とともに述べたり、相手の意見に応じて、論理の構成や展開を工夫しながら賛成したり反対することができる。

9 指導過程

段階	学習活動	時間 (分)	◇指導上の留意点◆評価規準【観点】(評価方法) ※◆の次にAの具体的な姿の例と、Cへの手立ても記す
導入	1 Warm-up Activities	10分	◇共通して見られた生徒の間違いなどについて全体で共有する。
	<b>Today's goal : You will be able to tell your opinions and reasons about disastrous situations through Trio Discussion.</b>		
展開	2 Trio Discussion Introduction (1) JTE からトリオ・ディスカッションの説明を聞く。 (2) 自然災害時に周りの人のためにできることについて JTE と ALTによるディスカッションモデルを見る。 (3) JTE と ALTのディスカッションの内容についてペアで確認し合う。	35分	◇トリオ・ディスカッションを行う際の注意点について説明する(ワークシート) ◇単元に関連した話題についてスライドを用いて紹介する。
	3 Trio Discussion (1) 論題についてブレインストーム 自然災害時に周りの人のためにできることについてその理由とともに考える。 (2) Trio Discussion #1 ディスカッショングループごとに集まり、ディスカッションを行う。 ① Trio Discussion 3'00" ② Reflection 1'00" (3) 1回目のディスカッションの改善点について教師からの説明を聞く。 (4) Trio Discussion #2 グループのメンバーを変えてもう一度ディスカッションを行う。		◇3人で1つのグループを編成する。 ◇自分の意見を理由とともに述べるように注意を促す。 ◇1回目のディスカッションの改善点について、全体で共有する中間指導を行い、生徒に自分たちの議論をメタ認知させる。 ◇1回目のディスカッショングループとは異なるメンバーでグループを編成する。
まとめ	4 Reflection ディスカッションにおいて目標が達成できたか振り返る。	5分	

資料	トリオ・ディスカッションシート、発信活動のための語彙リスト、Projector、Timer
----	---